

会員事業所景況実態調査令和3年1月～令和3年3月分集計結果
調査依頼数:542 回答数 74 回答割合:14%

令和2年度4回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおりに報告いたします。
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

★DI値とは

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から
 減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で
 景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

【質問 A】 前年同時期と比較した1月～3月の景況

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	16	20	38	74	▲ 29.7	▲46.7	17
	採算	12	32	30	74	▲ 24.3	▲46.7	22.4
	仕入単価	3	50	20	73	▲ 23.3	▲22.5	▲0.8
	従業員	13	52	9	74	5.4	▲2.2	▲7.6
	業況	9	34	31	74	▲ 29.7	▲54.3	24.6
	資金繰り	3	55	16	74	▲ 17.6	▲25.0	7.4
建設・建築業	売上	2	5	6	13	▲ 30.8	▲31.6	0.8
	採算		7	6	13	▲ 46.2	▲36.8	▲9.4
	仕入単価		7	6	13	▲ 46.2	▲42.1	▲4.1
	従業員	5	7	1	13	30.8	21.1	▲9.7
	業況	1	6	6	13	▲ 38.5	▲47.4	8.9
	資金繰り	1	10	2	13	▲ 7.7	▲26.3	18.6
製造業	売上	4	4	9	17	▲ 29.4	▲60.0	30.6
	採算	3	7	7	17	▲ 23.5	▲55.0	31.5
	仕入単価	2	12	3	17	▲ 5.9	▲22.2	16.3
	従業員	2	13	2	17	0.0	▲25.0	▲25
	業況	3	8	6	17	▲ 17.6	▲65.0	47.4
	資金繰り	1	13	3	17	▲ 11.8	▲40.0	28.2
卸・小売業	売上	4	1	7	12	▲ 25.0	▲50.0	25
	採算	3	3	6	12	▲ 25.0	▲44.4	19.4
	仕入単価		10	2	12	▲ 16.7	▲22.2	5.5
	従業員	2	8	1	11	9.1	▲5.6	▲14.7
	業況	1	6	5	12	▲ 33.3	▲50.0	16.7
	資金繰り	1	7	4	12	▲ 25.0	▲16.7	▲8.3
飲食・サービス業	売上	4	3	11	18	▲ 38.9	▲47.6	8.7
	採算	4	5	9	18	▲ 27.8	▲42.9	15.1
	仕入単価	1	10	6	17	▲ 29.4	▲14.3	▲15.1
	従業員	3	11	4	18	▲ 5.6	4.8	10.4
	業況	2	5	11	18	▲ 50.0	▲47.6	▲2.4
	資金繰り		12	6	18	▲ 33.3	▲4.8	▲28.5
不動産・その他	売上	2	7	5	14	▲ 21.4	▲42.9	21.5
	採算	2	10	2	14	0.0	▲57.1	57.1
	仕入単価		11	3	14	▲ 21.4	▲7.7	▲13.7
	従業員	1	13	1	15	0.0	▲7.7	▲7.7
	業況	2	9	3	14	▲ 7.1	▲64.3	57.2
	資金繰り		13	1	14	▲ 7.1	▲42.9	35.8

(全体)

仕入単価、従業員以外は改善しており、採算、業況は20ポイント以上改善している。仕入単価もほとんど悪化はしていない。
 DI値も資金繰りは▲10ポイント台、その他は▲20ポイント台まで回復している。一方、従業員は昨年7～9月の結果以降続い
 ていた過剰から不足に転じている。

(建設・建築業)

売上、業況、資金繰りは改善しており、資金繰りは20ポイント近く改善している。一方、採算、仕入単価、従業員はわずかではあるが
 悪化している。DI値は、資金繰り以外は依然として高く、売上・業況は▲30ポイント以上、採算・仕入単価は▲40ポイント以上となっている。
 従業員では、前回より人手不足がより強くなっており、DI値も30ポイント以上と高くなっている。

(製造業)

全項目で大きく改善しており、業況は40ポイント以上、売上・採算は30ポイント以上と大きく改善している。DI値も売上・採算
 は▲20ポイント台、業況・資金繰りは▲10ポイント台まで回復している。従業員は過剰から適正と回復している。

(卸・小売業)

従業員・資金繰り以外は改善しており、売上は20ポイント以上回復している。DI値も仕入単価が▲10ポイント台、売上・採算・資金繰りが
 ▲20ポイント台まで回復しているが、業況では依然として▲30ポイント台になっている。一方、従業員では過剰から不足に転じて
 いる。

(飲食・サービス業)

売上・採算は改善しているが、仕入単価・業況・資金繰りは悪化しており、特に資金繰りでは30ポイント近く悪化している。DI値では、依然
 として売上・資金繰りは▲30ポイント台、業況は▲50ポイント台と高くなっている。また従業員では不足から過剰に転じている。

(不動産・その他)

仕入単価以外は大きく改善しており、採算・業況は50ポイント以上、資金繰りは30ポイント以上、売上は20ポイント以上改善している。DI値でも売上・仕入単価は▲20ポイント台、業況・資金繰りは▲10ポイント未満、採算は0ポイントと大幅に改善している。従業員も過剰から適正へ改善している。

【質問 A】 3月と比較した4月～6月の先行き見通しについて

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	10	25	38	73	▲ 38.4	▲53.8	15.4
	採算	10	28	34	72	▲ 33.3	▲53.8	20.5
	仕入単価	2	45	25	72	▲ 31.9	▲19.3	▲12.6
	従業員	17	49	8	74	12.2	▲3.3	15.5
	業況	7	29	36	72	▲ 40.3	▲63.0	22.7
	資金繰り	0	54	20	74	▲ 27.0	▲29.3	2.3
建設・建築業	売上	1	6	6	13	▲ 38.5	▲73.7	35.2
	採算		8	5	13	▲ 38.5	▲68.4	29.9
	仕入単価		7	6	13	▲ 46.2	▲36.8	▲9.4
	従業員	7	5	1	13	46.2	10.5	35.7
	業況	1	6	6	13	▲ 38.5	▲73.7	35.2
	資金繰り		10	3	13	▲ 23.1	▲36.8	13.7
製造業	売上	2	8	6	16	▲ 25.0	▲65.0	40
	採算	2	8	6	16	▲ 25.0	▲65.0	40
	仕入単価	1	8	8	17	▲ 41.2	▲33.3	▲7.9
	従業員	1	14	2	17	▲ 5.9	▲30.0	24.1
	業況	2	7	7	16	▲ 31.3	▲65.0	33.7
	資金繰り		14	3	17	▲ 17.6	▲35.0	17.4
卸・小売業	売上	1	3	8	12	▲ 58.3	▲29.4	▲28.9
	採算	2	2	8	12	▲ 50.0	▲35.3	▲14.7
	仕入単価		10	2	12	▲ 16.7	▲17.6	0.9
	従業員	2	9		11	18.2	5.6	12.6
	業況		5	7	12	▲ 58.3	▲61.1	2.8
	資金繰り		7	5	12	▲ 41.7	▲16.7	▲25
飲食・サービス業	売上	5	3	10	18	▲ 27.8	▲42.9	15.1
	採算	5	3	10	18	▲ 27.8	▲42.9	15.1
	仕入単価	1	10	6	17	▲ 29.4	0.0	▲29.4
	従業員	3	11	4	18	▲ 5.6	9.5	▲15.1
	業況	2	3	12	17	▲ 58.8	▲47.6	▲11.2
	資金繰り		11	7	18	▲ 38.9	▲14.3	▲24.6
不動産・その他	売上	1	5	8	14	▲ 50.0	▲57.1	7.1
	採算	1	7	5	13	▲ 30.8	▲57.1	26.3
	仕入単価		10	3	13	▲ 23.1	▲7.7	▲15.4
	従業員	4	10	1	15	20.0	▲15.4	35.4
	業況	2	8	4	14	▲ 14.3	▲71.4	57.1
	資金繰り		12	2	14	▲ 14.3	▲50.0	35.7

(全体)

仕入単価・従業員以外は改善する見通しで、特に採算・業況は20ポイント以上回復する。しかしながら、DI値では依然として売上・採算・仕入単価は▲30ポイント台、業況では▲40ポイント台と高い状態が続く。一方、従業員は過剰から不足に転じる見通しである。

(建設・建築業)

仕入単価・従業員以外は大きく改善する見通しで、売上・採算・業況では30ポイント前後以上改善する。しかしながら、DI値は売上・採算・業況は▲30ポイント台、仕入単価は▲40ポイント台と依然として高くなる。一方、従業員では人手不足が非常に強くなる見通しで、DI値もプラス40ポイント台となる。

(製造業)

仕入単価以外は大きく改善する見通しで、売上、採算では40ポイント以上、業況は30ポイント以上と大きく改善する。DI値も売上・採算は▲20ポイント台、資金繰りは▲10ポイント台まで回復する。一方で、仕入単価のDI値は▲40ポイント台と依然として高くなる。従業員では過剰から適正に近づき回復する見通しである。

(卸・小売業)

仕入単価、業況以外は悪化する見通しで、売上・資金繰りは20ポイント以上と大きく悪化している。DI値では、売上・採算・業況では▲50ポイント台、資金繰りは▲40ポイント台と非常に高くなっており、非常に厳しくなる。また、従業員では人手不足が強くなる見通しである。

(飲食・サービス業)

売上・採算以外は悪化する見通しで、仕入単価・資金繰りは20ポイント以上と大きく悪化する。DI値では、業況が▲50ポイント台と高くなる。一方、従業員では他の業種が人手不足となる見通しを立てるなか、唯一人手過剰に転じる見通しである。

(不動産・その他)

仕入単価以外は改善する見通しで、業況は50ポイント以上、資金繰りは30ポイント以上と大きく改善する。DI値でも業況・資金繰りは▲10ポイント台まで回復するが、売上は▲50ポイント台、採算は▲30ポイント台と依然として高くなる。一方、従業員は過剰から人手不足に転じる見通しである。